

シラバス (様式)

授業科目名：現代東アジア特論（韓国） Contemporary East Asia (Korea)		担当教員名：吉澤文寿 Fumitoshi Yoshizawa	
選択/必修：選択 Elective	単位数：2	セメスター：1後 / 1 Fall	開講言語：日本語 Japanese
ディプロマポリシーとの関連			
国際社会の知識	政策分析能力	英語コミュニケーション能力	
●	●		
<p>○授業の到達目標及びテーマ</p> <p>19世紀後半から現在までの日本近現代史における朝鮮との関係について、歴史学の方法を用いて学ぶことにより、受講者のそれぞれの研究において歴史学的な視点を活用、応用することができるようになる。</p> <p>○Purpose</p> <p>By learning the relationship between Japan and Korea from the late 19th century, using historical method, this course aims that each student study their own theme applying historical perspective.</p>			
<p>○授業の概要</p> <p>日本近現代史において、朝鮮との関係はしばしば軽視されがちであるが、実際には非常に重要な位置を占める。とりわけ、日本による朝鮮植民地化は日本が欧米列強に肩を並べるべく追求した日本の植民地帝国化と不可分であった。そして、35年に及ぶ植民地支配は多くの朝鮮人に苦痛と損害を与え、とりわけ朝鮮人に対する戦時強制動員は現在も解決すべき課題として残されている。</p> <p>敗戦後の日本はGHQ/SCAPによる占領を経て、サンフランシスコ講和条約により独立し、戦後体制に復帰する。一方、朝鮮は南北に分断され、「民族相残」の朝鮮戦争により、アジア・太平洋戦争による日本の死者を上回る犠牲者が発生した。日本は米国のジュニア・パートナーとして韓国との国交正常化を実現させ、「経済大国」への道を進む。この過程で日本の植民地支配に対する責任問題が後景に押しやられた。しかしながら、韓国の民主化、そして朝鮮民主主義人民共和国との国交正常化交渉がはじまると、戦時強制動員をはじめとする植民地支配の被害者たちの訴えが可視化され、植民地支配責任問題が台頭する。</p> <p>このような日本近現代史と朝鮮との関係を考える上で、在日朝鮮人の歴史も重要である。在日朝鮮人の歴史、文化、そして人権を考えることで、日本近現代史に対する理解をより深めることができる。</p> <p>このような日朝関係史を学び、冷戦終結から30年がすぎた日本と（南北）朝鮮との関係について、歴史的な考察を踏まえて今後を展望する。</p> <p>○Outline</p> <p>In the modern history of Japan, the relationship with Korea is inclined to be ignored. However, it has importance to understand Japanese history. To see it from the reverse side, Korean modern history cannot be understood without Japan.</p> <p>In this course, students study the chronological aspects of Korean modern history - colonization, colonial rule, liberation, and division. Additionally, the history of Koreans in Japan is understood through the process.</p>			

For outlooking the future of the post-cold-war relationship Japan and (South and North) Korea, students think the issue historically, including Japanese war claim and colonial responsibility.

○授業の方法

- ・授業は日本語で行う。
- ・文献も日本語が中心となる。受講生が使用できる言語により、参考文献として英語や朝鮮語の文献を提示することがある。
- ・受講者は指定された文献を事前に必ず読み、疑問点や論点になるところを確認しておく。発表する文献は必読であり、参考文献はなるべく読み、準備をしておく。
- ・各回につき、予習 2 時間以上、復習 2 時間以上が必要である。
- ・受講者が分担して、指定された文献をまとめて、発表する。各回の議論の後で、教員が講評を行う。
- ・学期末（試験期間）にこの講義で学んだことを元に、独自に課題を設定してレポートを提出する。レポートの字数は 6000 字（400 字×15 枚）程度とする。

○Teaching and learning methods

This course uses Japanese; however, the language is negotiable. See above for details.

○授業計画 / Class schedule

以下に各回で発表する論文を示す。（ ）内の数字はテキストの巻次である。

See “Textbook”. The numbers indicate the volume number.

第 1 回 ガイダンス

この講義についての説明。発表担当の確認など。

第 2 回 近代（1）...日清戦争までの日本と朝鮮

井上勝生「明治維新とアジア—二つの『併合』、北海道と朝鮮」（1）

岡本隆司「属国／保護と自主—琉球・ベトナム・朝鮮」（1）

長谷川直子「朝鮮中立化論と日清戦争」（1）

第 3 回 近代（2）...大韓帝国期の朝鮮と日本

趙景達「危機に立つ大韓帝国」（2）

朴羊信「日本の大陸侵略—満韓交換論をめぐって」（2）

第 4 回 近代（3）...日露戦争以後の朝鮮植民地化

和田春樹「日露戦争と韓国併合 19 世紀末—1900 年代」（2）

愼蒼宇「植民地戦争としての義兵戦争」（2）

松田利彦「日本の韓国併合」（2）

第 5 回 近代（4）...「武断政治」と 3・1 運動

趙景達「世界戦争と改造 1910年代」(3)

山室信一「第一次大戦の衝撃と帝国日本」(3)

小川原宏幸「武断政治と三・一独立運動」(3)

第6回 近代(5) ... 「文化政治」期の朝鮮人の諸活動

岡本真希子「帝国日本の植民地統治と官僚制—1920年代の朝鮮総督府・台湾総督府」(4)

宮本正明「朝鮮における『文化政治』と『協力』体制」(4)

第7回 近代(6) ... 1930年代の日本と朝鮮

宋連玉「植民地期朝鮮の女性」(5)

板垣竜太「朝鮮の地域社会と民衆」(5)

田中隆一「『民族共和』と『自治』—『在満朝鮮人』問題を中心に」(5)

第8回 近代(7) ... 戦時体制期の朝鮮

久保亨「東アジアの総動員体制」(6)

庵途由香「朝鮮における総動員体制の構造」(6)

内海愛子「捕虜と捕虜収容所」(6)

第9回 現代(1) ... 朝鮮の「解放」、そして分断体制の成立

浅野豊美「敗戦・引揚と残留・賠償—帝国解体と地域的再編」(7)

李景珉「解放と朝鮮民衆」(7)

第10回 現代(2) ... 朝鮮戦争と日本

和田春樹「朝鮮戦争」(7)

南相九「恩給と慰霊・追悼の社会史」(7)

我部政明「沖縄占領と東アジア国際政治」(7)

第11回 現代(3) ... 在日朝鮮人帰国事業

テッサ・モーリス＝スズキ「日本の植民地主義、移民、他者恐怖—3つの旅路—」(『社会科学 [同志社大学人文科学研究所]』第86号、2010年)

朴正鎮「在日朝鮮人『帰国問題』：新しい論点と課題」(『歴史学研究』第937号、2015年)

戸邊秀明「沖縄『占領』からみた日本の『高度成長』」(8)

第12回 現代(4) ... 1960～70年代の南北朝鮮と日本

吉澤文寿「日韓国交正常化」(8)

木宮正史「朴正熙政権と韓国現代史」(8)

李鍾奭「北朝鮮の社会主義」(8)

第13回 現代(5) ... 脱冷戦期の南北朝鮮と日本—政治的側面

佐藤晋「日本の地域構想とアジア外交」(9)

初瀬龍平「『戦後政治の総決算』」(9)

石坂浩一「韓国民主革命」(9)

倉田秀也「六者会談の生成と展開—国連安保理の地域的代替と効用」(10)

第14回 現代(6) ...脱冷戦期の南北朝鮮と日本—経済的側面

吉野文雄「日本と成長のアジア」(9)

鄭章淵「1980年代の韓国経済と財閥—民主化と自由化のはざままで」(9)

平岩俊司「北朝鮮 危機からの脱出を求めて」(9)

第15回 在日朝鮮人の歴史

樋口雄一「在日朝鮮人社会の成立と展開」(5)

小林知子「在日朝鮮人の『帰国』と『定住』」(7)

田中宏「日本の中のアジア—戦後補償と人権保障について」(10)

第16回 期末レポート提出

○テキスト/Textbook

和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡・川島真編著『岩波講座 東アジア近現代通史』(全10巻+別巻)、岩波書店、2010~2011年(オンデマンド版は2020年)。

○参考書・参考資料等

日本近現代史および朝鮮近現代史の概説書は各自で読んでおくことが望ましい。ここでは日本および朝鮮の近現代史の概説書を示しておく。

井上勝生他著『シリーズ日本近現代史(全10冊)』岩波書店、2010年

李成市・宮嶋博史・糟谷憲一編『世界歴史大系 朝鮮史2 近現代』山川出版社、2017年

趙景達編著『近代日朝関係史』有志舎、2012年

糟谷憲一『朝鮮半島を日本が領土とした時代』新日本出版社、2020年

李鍾元・木宮正史・磯崎典世・浅羽祐樹『戦後日韓関係史』有斐閣、2017年など。

各回の講義においても参考文献を随時紹介する。

○Further reading

It is desirable to read overview book of Japanese and Korean modern history. See above for details.

Another books and articles will be provided each week.

○学生に対する評価

・講義における発表および討論(70%)

・期末レポート(30%)

※やむをえない場合を除き、必ず出席し、議論に参加すること。

○Grading

Presentations and discussions: 70%

Research paper: 30%

All students are required to attend the lessons and discuss except under unavoidable circumstances.

○オンライン授業に切り替えた場合の授業形態

- ・ 授業形態 : オンライン授業（リアルタイム配信型）
Manaba folio を利用して、授業内レポートおよび授業後レポートを提出する。
- ・ 資料・連絡事項掲載場所 : Manaba folio での連絡を主とするほか、授業内に連絡を随時行う。